## ●近世

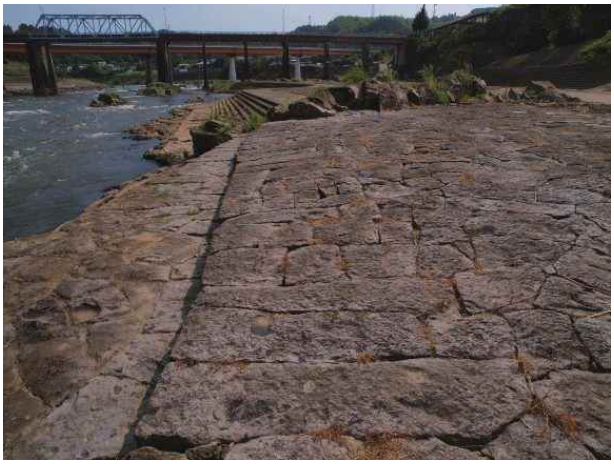
徳川政権による江戸幕府中心の政治が行なわれた時代で、幕府直轄地（天領）以外は、各藩に配置した大名に統制させた幕藩体制による統治が行なわれました。藩では年貢収入を増やすため井路開発や耕地開拓を行ない、窯業など産業の育成や鉱山開発など、社会や経済を発展させる整備を積極的に行なっています。

豊後国は小藩分立と称される８藩７領が入り交じる地域で、豊後大野市域は、主に岡藩と臼杵藩にわかれており、両藩に関連する様々な遺構が各地に残されています。

### 岡藩の主な遺跡

岡藩は中川氏が文禄３（1594）年に藩主として配置されて以後、13代に渡って続きました。岡城を居城に直入・大野郡の大部分を領し、石高は約７万石でした。

犬飼港跡（犬飼町犬飼）は、岡藩の物資輸送や参勤交代など河川交通の要衝として明暦２（1656）年に整備された川港の跡地です。以後も主要な交通路として発達し、その様子を描いた「犬飼港図」が当時の繁栄を伝えています。今でも川沿いに残る石畳や犬飼役所や御蔵場の痕跡を見ることができるほか、藩主の船着き場といわれる付近には、船の航海の安全を祈願したといわれている「波乗り地蔵」像が線刻で表されています。



犬飼港跡の石畳

二本木茶屋場（大野町大原）は、岡藩主の参勤交代で立ち寄った施設といわれています。土塁で囲まれた空間に建物跡と井戸の跡が見つかっています。他に朝地町にも休憩場所と伝わるお駕籠（かご）石と呼ばれる石があります。

一里塚とは主要な街道沿いに１里（約4km）ごとに設けられる道標として設置されたものです。岡城に近い緒方町では石碑形式ですが、清川町では盛土の塚で造られています。



岩戸一里塚

岡藩８代藩主中川久貞の墓所（緒方町片ヶ瀬国指定史跡）が小富士山にあります。儒式墓と呼ばれる形式の墓石で、寛政２（1790）年に造立されています。

また、藩主に仕えた家臣である中川久豊・久虎・久照の墓所（緒方町寺原　市指定史跡）、井上並古・並増墓所（朝地町朝地　県指定史跡）も儒教式の墓所として知られています。



中川久貞公墓

小宛焼と呼ばれる山水画のある磁器や陶器などの製品が伝えられています。緒方町寺原で工事中に陶磁器と窯道具が見つかったことによりここに窯跡があったことが判明し、江戸時代末期から明治初期にかけて生産されたものと推定されています。



小宛焼磁器碗（左）と窯道具（右）

### 臼杵藩の主な遺跡

臼杵藩は稲葉氏が慶長 5（1600）年に藩主として配置されて以後、15 代に渡って続きました。臼杵城を居城に海部郡北部から大分・大野郡の一部を領し、石高は約 5 万石です。

三重町市場にはかつて三重市と呼ばれた臼杵藩の在町が置かれており、市場遺跡では発掘調査で多くの陶磁器類が出土しています。人々の生活の痕跡とみられ、当時も商業地域として発展していたことがわかります。また、藩の地方行政施設として天保 10（1839）年に設置された三重代官所とみられる建物跡が三重第一小学校敷地内で見つかっています。



市場遺跡（三重代官所跡）

戸口遺跡（三重町久田）は、臼杵藩が岡藩境の主要街道に沿って設置した番所跡で、通行人の監視などを行っていました。石畳のある街道跡と、建物の石垣などが見つかっています。



戸口遺跡（岩戸口番所跡）

虹澗橋（三重町菅生　国重要文化財）は、文政 7（1824）年に三重川に架けられた石造アーチ橋です。三重郷の年貢米輸送のため架けられたもので、高さ 14 m、径間は 25.2 mの完成当時は国内最大のアーチ橋であったといわれています。現在の舗装された道路地下より当時の石畳の一部が残っています。



虹澗橋